

質問に対する回答について
 工事名) 秋田自動車道 山内トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	避難連絡坑による1期線既設覆工の取り壊しがワイヤーソーで計画されていますが、この取り壊しの費用は、単価表のどの項目に計上すればよろしいでしょうか。	避難連絡坑取合部におけるI期線本坑既設覆工の取壊しは、本工事の施工に含まれません。
2	補助工法(小口径長尺鋼管先受工、長尺鋼管鏡補強工A)の内、坑外からの施工分については施工時間がトンネル掘削工程に反映されていないように思われます(D3a-A-1(H)-Kのサイクルタイム表に補助工法施工時間が計上されていない)。参考図24/36の工事工程表において、坑口付け1ヶ月に含まれていると考えてよろしいでしょうか。	貴社の施工計画に基づきお考えください。
3	工事用仮栈橋において、KP27とKP28の杭長が図面では24.5mと26.0mで、数量計算書では24.0mと25.5mになっています。どちらを正とすればよろしいでしょうか。図面を正とする場合、38/38の杭材詳細図の杭長の合計は2350.5mとなり、総重量が404.286tとなりますが、1/38の工事用仮栈橋数量表における支持杭のリース品と中古品の合計403.512tと一致しません。ご確認をお願いします。	設計図(5/6)工事用仮栈橋 図面番号1の工事用仮栈橋数量表に誤りがありました。正しくは、杭材 支持杭(H-400×400×13×21)において、リース材309.600t、中古品94.686t(総重量404.286t)となります。上記については、交付図書を訂正致します。訂正公告をご確認願います。
4	地質縦断図より、今回工事のトンネル掘削対象地山は新第3紀層と考えてよろしいでしょうか。	そのとおりです。

番号	質問事項	回 答
5	上記の場合、新第三紀の岩の変化率（C値）で計算すると、本線と工事用道路の盛土に対して道路掘削とずり処理工Aでは土量が不足するように思われますが、いかがでしょうか。	交付図書のとおり不足土は発生しない計画となっております。
6	工事用道路の土量について、工事用道路横断図と閲覧資料の工事用道路数量計算書で盛土の断面積が異なっています。どちらを正とすればよろしいでしょうか。	設計図（3/6）工事用道路における盛土数量に誤りがありました。上記については、交付図書を訂正致します。訂正公告をご確認願います。
7	ずり処理工の施工の順序として、ずり処理工 A1 を先に行い、残りをずり処理工 C1 とする考えでよろしいでしょうか。	特記仕様書6-1に示す条件を踏まえ、貴社の施工計画に基づきお考えください。
8	上記の場合、ずり処理工 A1 とずり処理工 C1 それぞれのC地質とD地質の割合は、それぞれのトンネル掘削時期に応じたずり量の比率とされているのでしょうか。あるいはトンネル全体のC地質とD地質の比率とされているのでしょうか、御教示願います。	貴社の施工計画に基づきお考えください。
9	DⅢa-A-2(H)-K の長尺鋼管先受工および長尺鋼管鏡補強工に関し、施工断面が金抜設計書では5断面、図面では6断面となっておりますが、どちらが正しいでしょうか。	長尺鋼管先受工及び長尺鋼管鏡補強工に係る交付図書に不整合がありました。上記については、交付図書を訂正致します。訂正公告をご確認願います。
10	避難連絡坑付帯工の接続アンカー（D25 L=500）の仕様をご教示下さい。ケミカルアンカーでしょうか。	避難連絡坑付帯工 接続アンカーにおいて、特記仕様書の記載が不足しておりました。上記については、交付図書を訂正致します。訂正公告をご確認願います。

番号	質問事項	回 答
1 1	<p>調査ボーリング工に関しまして、特記仕様書 27-29(1)に「トンネル掘削に先行し・・・土質調査や地質状況の確認を行うため」とありますが、土質調査や地質状況の確認（発注者立会や報告書作成、施工承諾等）が終わらなければトンネル掘削に着手できないということでしょうか。特記仕様書 27-29(8)に示されるように速報版を FAX または電子メールを送信した時点でトンネル掘削を着手して良いのでしょうか。</p>	<p>調査ボーリング工について、土質・地質状況の確認を目的としており、トンネル掘削を制限するものではありません。</p>
1 2	<p>調査ボーリング工に関しまして、特記仕様書 27-29(4)2に「工程に影響が生じないよう、掘削範囲を重複させながら施工する」とあります。ここで言う工程とはどの工種を指しているのでしょうか。また、工程に影響が生じないようには、休日に調査ボーリングを施工するというのでしょうか。それともトンネル掘削工程に含まれるのでしょうか。休日に施工の場合、週休 2 日の扱いはどうなるのでしょうか。</p>	<p>特記仕様書 27-29(4)2)に示す「工事工程」とは、ずり処理工の工事工程となります。調査ボーリング工は、工事工程に影響が生じないよう、事前に詳細分析試験 Aにより切羽前方の地山状況を把握し、円滑にずり処理工を実施するために、調査ボーリング工を既調査範囲と重複させて施工するものとしております。</p>
1 3	<p>金抜設計書 番号 6 盛土工 A2 について、特記仕様書 P17 では盛土工 A2 に再生材（再生クラッシュ）を使用するとあり、特記仕様書 P24 では購入土（最大粒径 300 mm以下の岩ずり）を使用することとなっていますが、どちらが正しいのでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>盛土工 A2 については、特記仕様書 27-4 に示すとおり購入土(最大粒径 300mm以下の岩ずり)となります。特記仕様書 18-1 の表記に誤りがありましたので訂正致します。訂正公告をご確認願います。</p>

番号	質問事項	回 答
1 4	金抜設計書 番号 31 5・(2) 用・排水 管 P (Po-B) ・ ϕ 0.30 (Sd-B) に ついて、用・排水管に用いる高耐 圧ポリエチレン管の規格は R30 ・ R60 ・ R90 のどれでしょうか。	設計図 (1/6) 本線 (下り線) 図面番 号 35 及び土木工事共通仕様書 5-4 に 示すとおりです。
1 5	金抜設計書 番号 32 5・(2) 用・排水 管 P (Po-B) ・ ϕ 0.30 (Sd-B) に ついて、用・排水管に用いる高耐 圧ポリエチレン管の規格は R30 ・ R60 ・ R90 のどれでしょうか。	用排水構造物標準設計図集 208 及び土 木工事共通仕様書 5-4 に示すとおりで す。
1 6	金抜設計書 番号 38 5・(3) 集水ます TypeL について、集水ますに用い るグレーチングの価格をご教示願 います。	貴社にて積算願います。
1 7	金抜設計書 番号 38 5・(3) 集水ます TypeM について、集水ますに用い るグレーチングの価格をご教示願 います。	貴社にて積算願います。
1 8	金抜設計書 番号 50 コンクリート T3-4 について、トンネル覆工コン クリートに用いるコンクリートの 価格をご教示願います。	貴社にて積算願います。
1 9	金抜設計書 番号 72 12・(2) 吹付 コンクリート吹付コンクリート A ($t=25$ cm) CII-K-S について、避 難連絡坑の吹付コンクリート ($t=$ 25 cm) は積算基準がないため、本 坑下半吹付コンクリートの積算基 準を用いることよろしいでしょ うか。	貴社の施工計画に基づき必要な費用を 計上願います。

番号	質問事項	回 答
20	<p>金抜設計書 番号 101 12- (16) フリッカ設備工 フリッカ設備工 (供用) について、特記仕様書 P31 ではフリッカ設備は 1200Kvar となっていますが、積算基準では 1000Kvar 以上のものはないため、1200Kvar の供用日損料をご教示願います。</p>	<p>貴社にて積算願います。</p>
21	<p>金抜設計書 番号 102 12- (16) フリッカ設備工 フリッカ設備設置工 について、特記仕様書 P31 ではフリッカ設備は 1200Kvar となっていますが、積算基準では 1000Kvar 以上のものはないため、1200Kvar の供用日損料をご教示願います。</p>	<p>貴社にて積算願います。</p>
22	<p>金抜設計書 番号 103 12- (16) フリッカ設備工 フリッカ設備撤去工 について、特記仕様書 P31 ではフリッカ設備は 1200Kvar となっていますが、積算基準では 1000Kvar 以上のものはないため、1200Kvar の供用日損料をご教示願います。</p>	<p>貴社にて積算願います。</p>
23	<p>金抜設計書 番号 137 特- (5) 盛土付帯工 遮水シート A について、盛土付帯工に用いる遮水シートの価格をご教示願います。</p>	<p>貴社にて積算願います。</p>
24	<p>割掛対象表参考内訳書 インバート 棧橋費について、「材料費は全損扱い」と記載されていますが、インバート 棧橋の単価を公表して頂けるでしょうか。ご教示願います。</p>	<p>貴社にて積算願います。</p>

番号	質問事項	回 答
25	<p>避難連絡坑の覆工コンクリート、防水工と床版コンクリートの範囲（数量）についての質問です。</p> <p>数量明細書の「8-(1)コンクリート T3-4 の「番号 5.避難連絡坑（上り線）133.3 m³」においては、Ⅱ期線からⅠ期線まで全線の数量が計上されていると思われませんが、設計図 6/6 参考図の図面番号 16 の【ステップ 3】では、CⅡ-K-S-2 と CⅡ-K-S-3 区間は、「Ⅰ期線改修工事で施工（Ⅱ期線トンネルへ交通切替）」と表記されており、本工事ではなく、別工事で施工するとの解釈ができます。</p> <p>本工事に CⅡ-K-S-2 と CⅡ-K-S-3 区間の覆工が含まれるかどうか、ご教示お願いいたします。</p> <p>また、併せて防水工、床版コンクリートの範囲もご教示お願いいたします。</p>	<p>設計図（6/6）参考図 図面番号 16 の表記が誤っておりました。本工事に CⅡ-K-S-2 及び CⅡ-K-S-3 の区間は含まれます。</p> <p>上記については、交付図書を訂正致します。訂正公告をご確認願います。</p>